

2026年06月 イーアイデム会員対象アンケート結果

TOPICS

7割以上が応募検討中の企業の求人動画をみたいと回答

株式会社アイデム

メディアソリューション事業本部 データリサーチチーム

調査名

- 【イーアイデム会員限定】お仕事探しに関するアンケート

調査目的

- 現在の求職者の状況を把握し、今後のサービス向上・商品開発につなげる

調査対象

- 総合求人サイト「イーアイデム」の会員で、2026/06/01～2026/06/30の期間にイーアイデムから何らかの求人に応募した人

調査期間

- 2026/06/02～2026/07/05（34日間）

調査方法

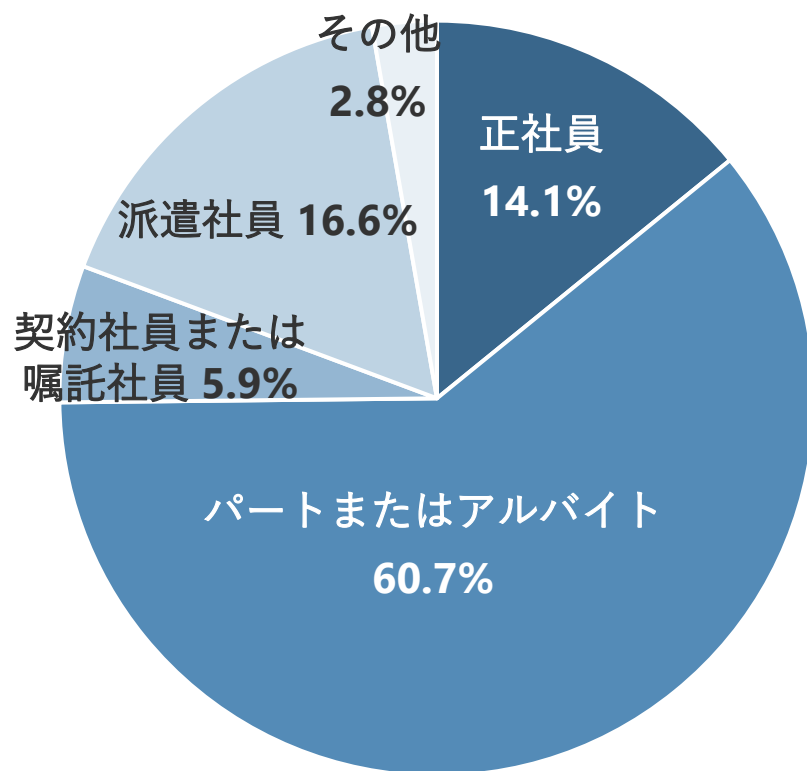
- インターネットリサーチ

有効回答数

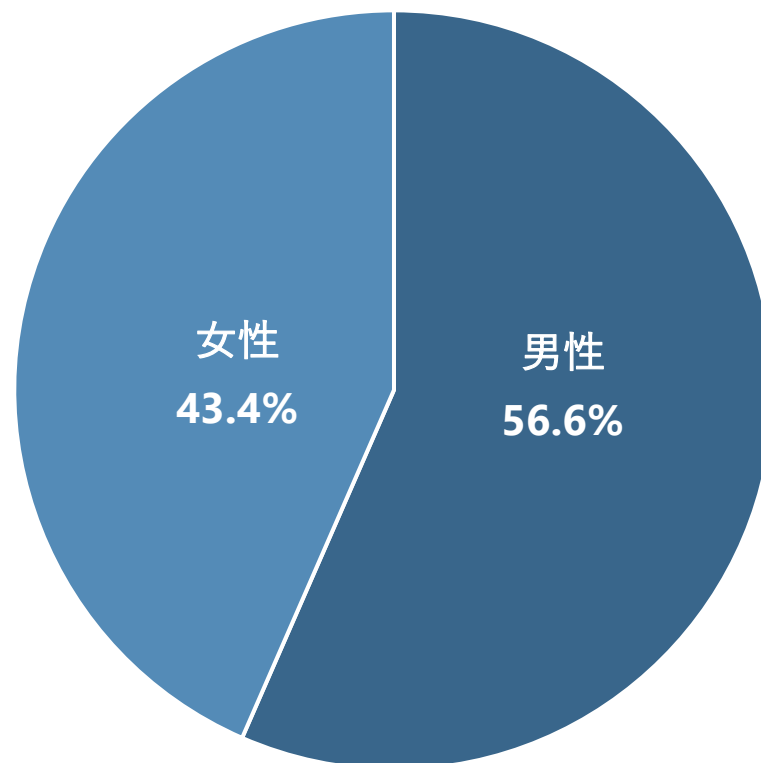
- 290件

※調査結果は四捨五入のために合計が100%にならない場合があります

希望する雇用形態



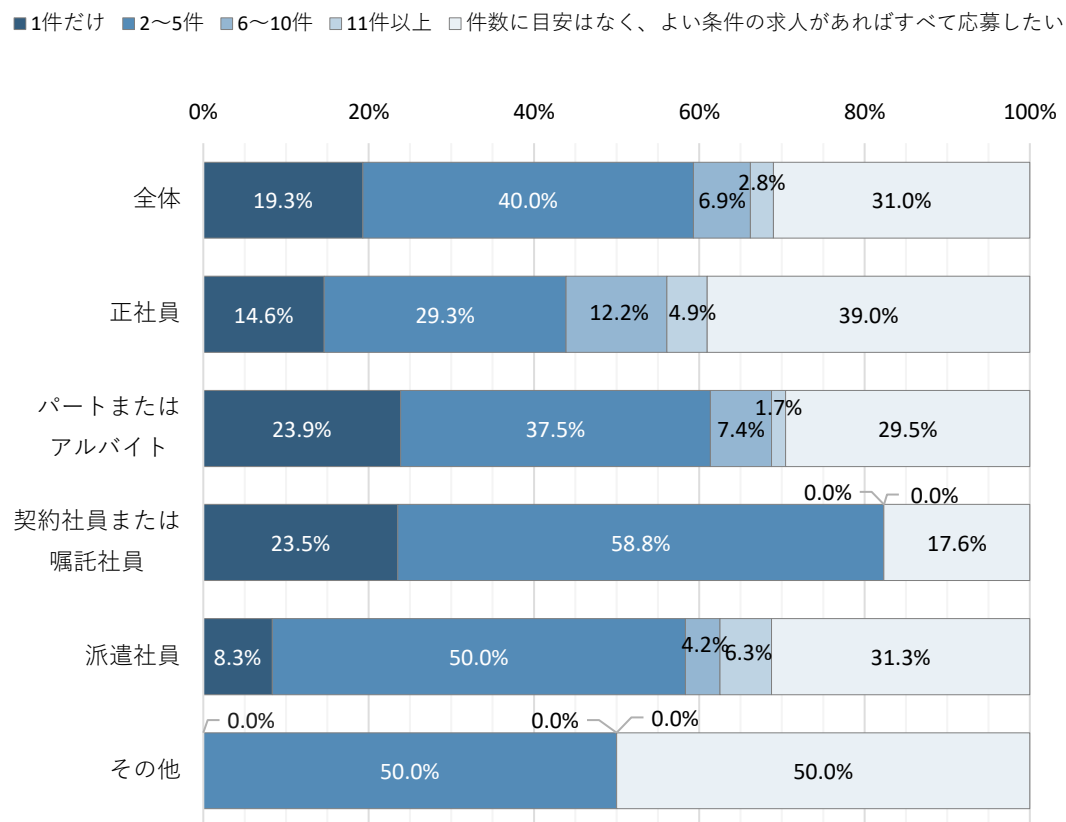
性別



イーアイデムに掲載された求人に応募した人に、今回の求職活動期間の中で、求人に応募する件数の目安があるかどうかをきいた。全体では、「2～5件」が最も多く40.0%、次いで「件数に目安はなく、よい条件があればすべて応募したい」が31.0%、「1件だけ」が19.3%、「6～10件」が6.9%、「11件以上」が2.8%となった。「1件だけ」以外を選んだ割合は全体の8割ほどとなった。

希望雇用形態別にみると、「正社員」では「よい条件の求人があればすべて応募したい」が39.0%となり、全体より8.0pt高くなった。応募件数に目安を設けずに、希望の条件にあう求人には前向きに応募していきたいようだ。

今回の求職活動期間の中で、およそ何件ほど応募しようと思いますか。



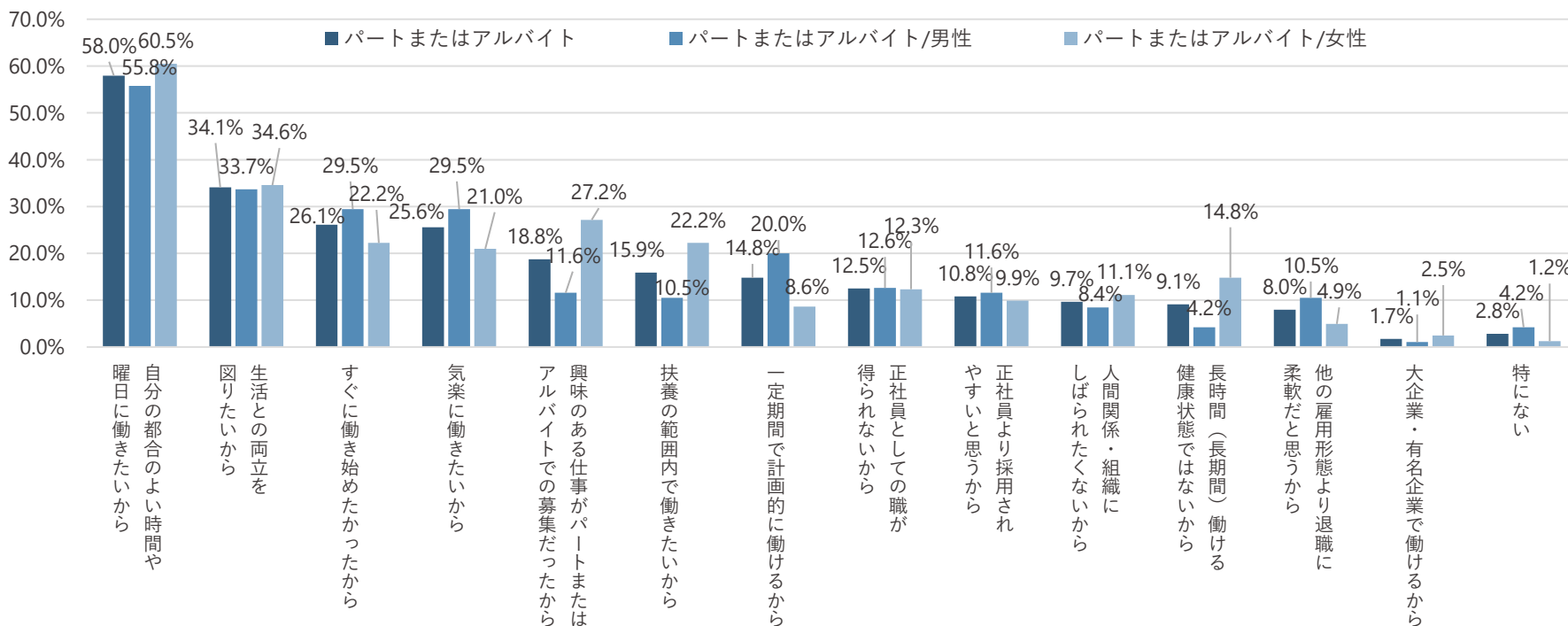
パート・アルバイトを希望する理由

イーアイデムに掲載された求人に応募した、パートまたはアルバイトを希望する人に、なぜその雇用形態を希望するのかをきいた（複数回答）。最も多かったのは「自分の都合のよい時間や曜日に働きたいから」で58.0%、次いで「生活との両立を図りたいから」が34.1%、「すぐに働き始めたかったから」が26.1%となった。特に勤務時間の柔軟性や私生活との両立を重視していることがわかる。

性別との関係を見ると、「男性」のほうが「女性」よりも「一定期間で計画的に働けるから」が11.4pt、「気楽に働きたいから」が8.5pt、「すぐに働き始めたかったから」7.3pt高かった。精神的な負荷が少ない働き方や、就業開始までの即時性を重視する傾向がみられる。

一方、「女性」のほうが「男性」よりも「興味のある仕事がパートまたはアルバイトでの募集だったから」が15.6pt、「扶養の範囲内で働きたいから」が11.7pt、「長時間（長期間）働ける健康状態ではないから」が10.6pt高くなった。体調や収入などの制限がある中でも就業できる形を望んでいる傾向があるようだ。

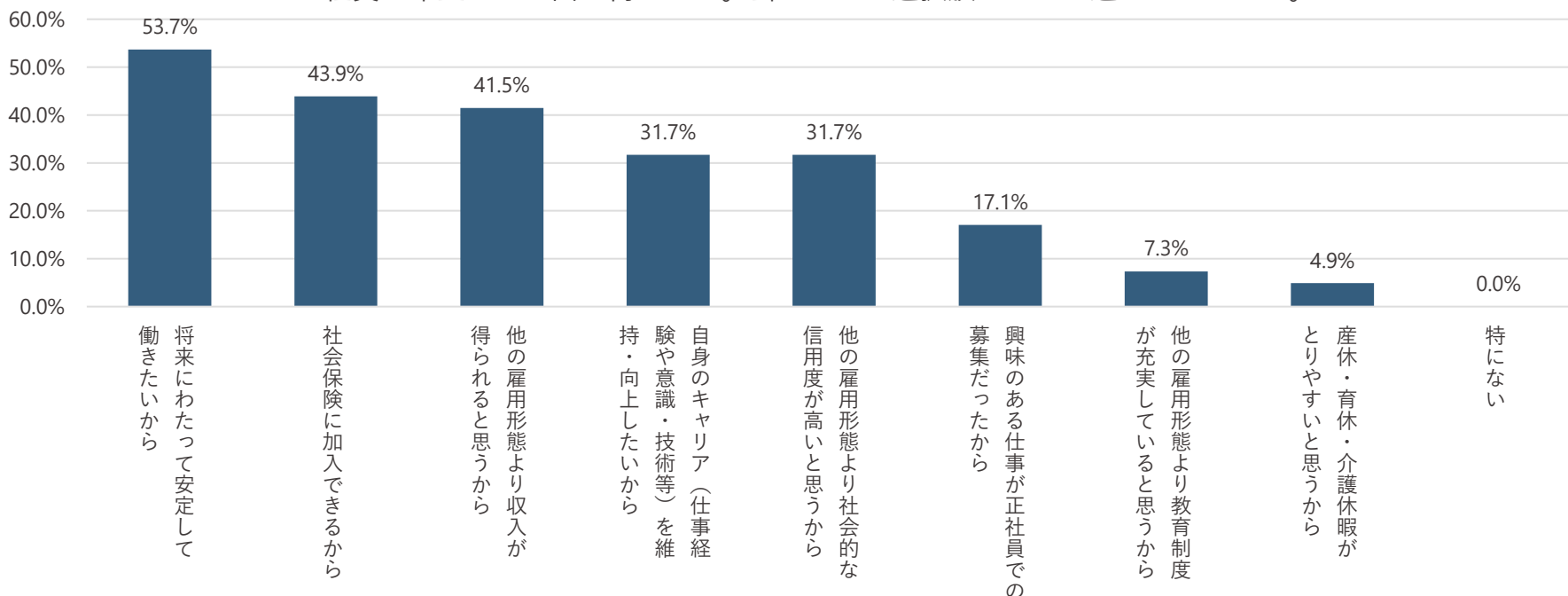
パートまたはアルバイトを希望する理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



正社員を希望する理由

イーアイデムに掲載された求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、なぜ正社員を希望するのかをきいた（複数回答）。最も多かったのは「将来にわたって安定して働きたいから」が53.7%、次いで「社会保険に加入できるから」が43.9%、「他の雇用形態より収入が得られると思うから」が41.5%となった。将来まで続く長期的な雇用の安定性に加えて、収入面における安定性への期待があることがうかがえる。正社員を希望する理由としては、キャリア形成よりも生活基盤の確保をは優先した選択である人が多いようだ。今回「特にない」を選んだ割合は0.0%で、何らかの理由があって正社員での雇用を望んでいる人が多数であることがわかった。

正社員を希望する理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。

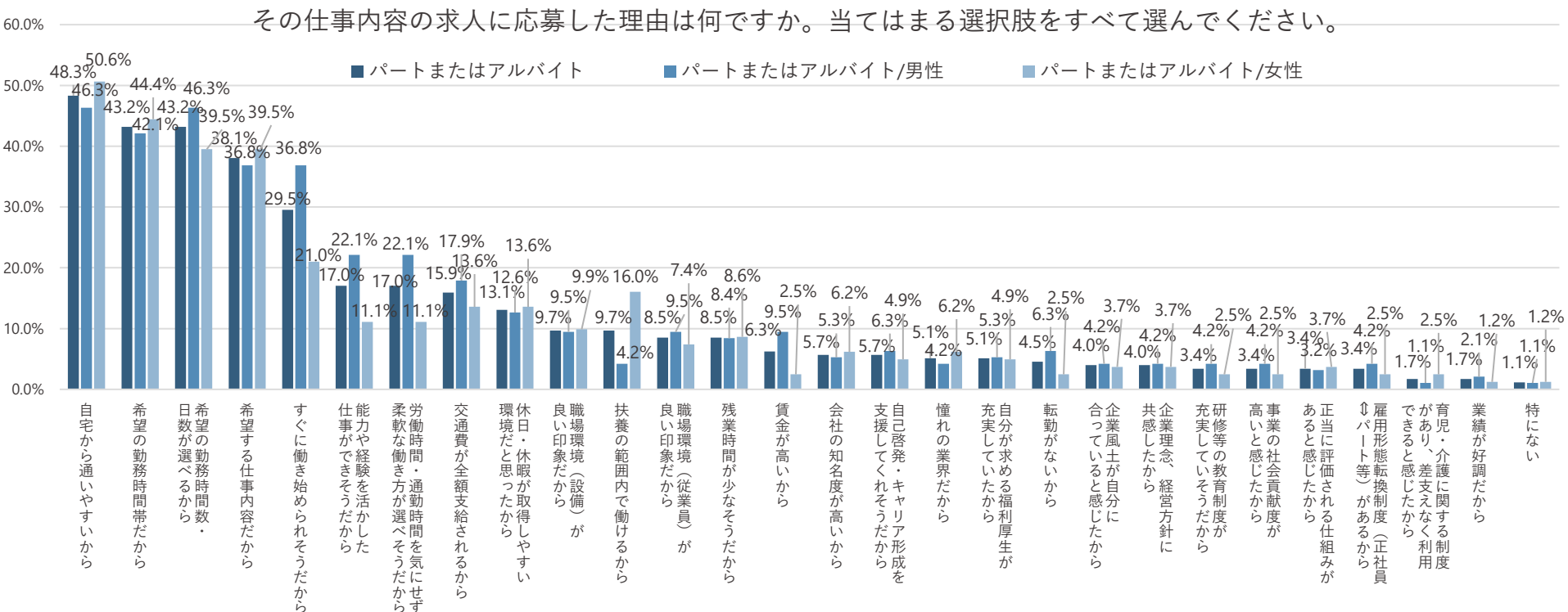


求人に応募した理由（パート・アルバイト希望の場合）

イーアイデムに掲載された求人に応募した、パートまたはアルバイト雇用を希望する人に、自身が応募した求人を選んだ理由をきいた（複数回答）。最も多かったのは「自宅から通いやすいから」で48.3%、次いで「希望の勤務時間帯だから」と「希望の勤務時間数・日数が選べるから」が43.2%となった。応募先の選択においては、通勤利便性に加えて、働く時間や日数に関する柔軟性が重要な判断基準となっているようだ。

性別との関係を見ると、「男性」のほうが「女性」よりも「すぐに働き始められそうだから」が15.8pt、「能力や経験を活かした仕事ができそうだから」と「労働時間・通勤時間を気にせず柔軟な働き方が選べそうだから」が11.0pt高くなった。仕事始めまでの即時性を重視しているほか、これまでの経験を活かせる仕事や自分に合わせて仕事の形を選べる求人にニーズが高まっている。

一方、「女性」のほうが「男性」よりも「扶養の範囲内で働けるから」が11.8pt高くなった。収入目安を超えないような働き方を男性より重視する傾向にある。

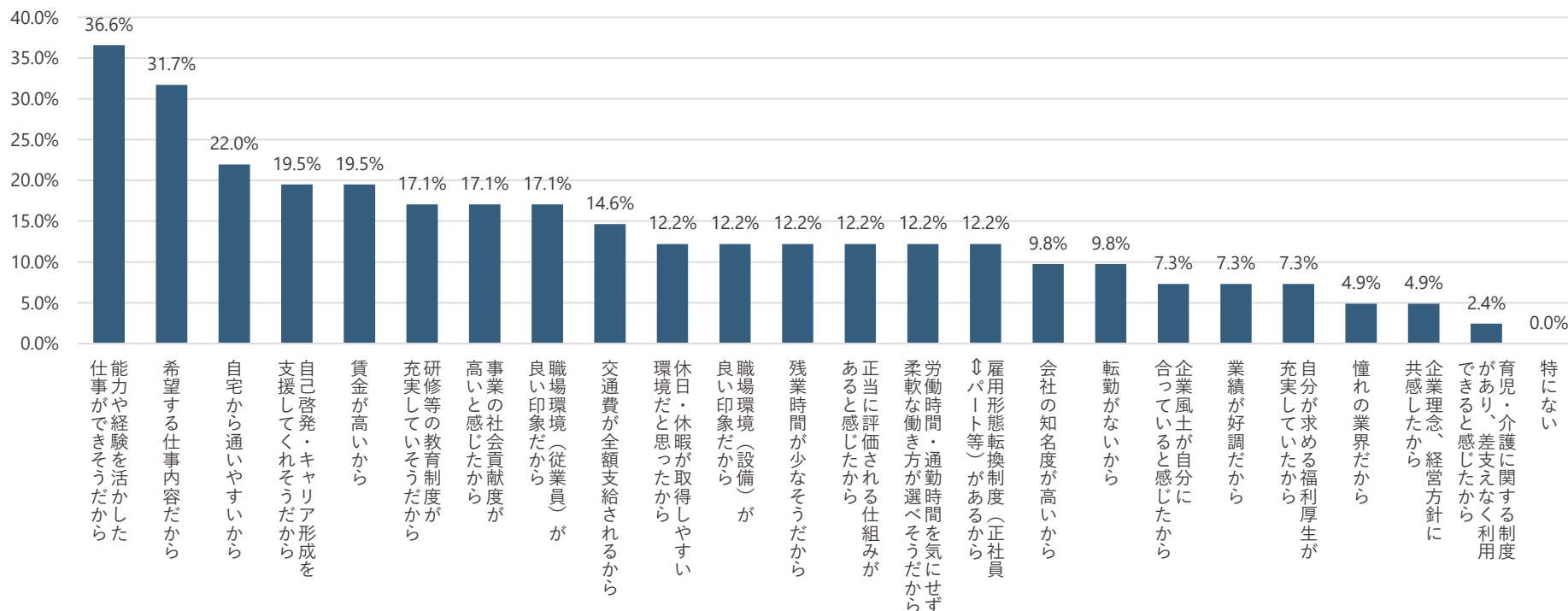


求人に応募した理由（正社員希望の場合）

イーアイデムに掲載された求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、自身が応募した求人を選んだ理由をきいた（複数回答）。最も多かったのは「能力や経験を活かした仕事ができそうだから」が36.6%、「希望する仕事内容だから」が31.7%となった。仕事内容やこれまで培ってきた経験とのマッチング具合が応募先選定の要素として重要であることがわかる。求人情報では職務の具体的な活躍イメージまで記載することで応募に繋がりがやすくなりそうだ。

さらに、「自己啓発・キャリア形成を支援してくれそうだから」は19.5%、「研修等の教育制度が充実していそうだから」は17.1%だった。更なるキャリアアップに対して企業側の後押しを求める声も少なくない。

その仕事内容の求人に応募した理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



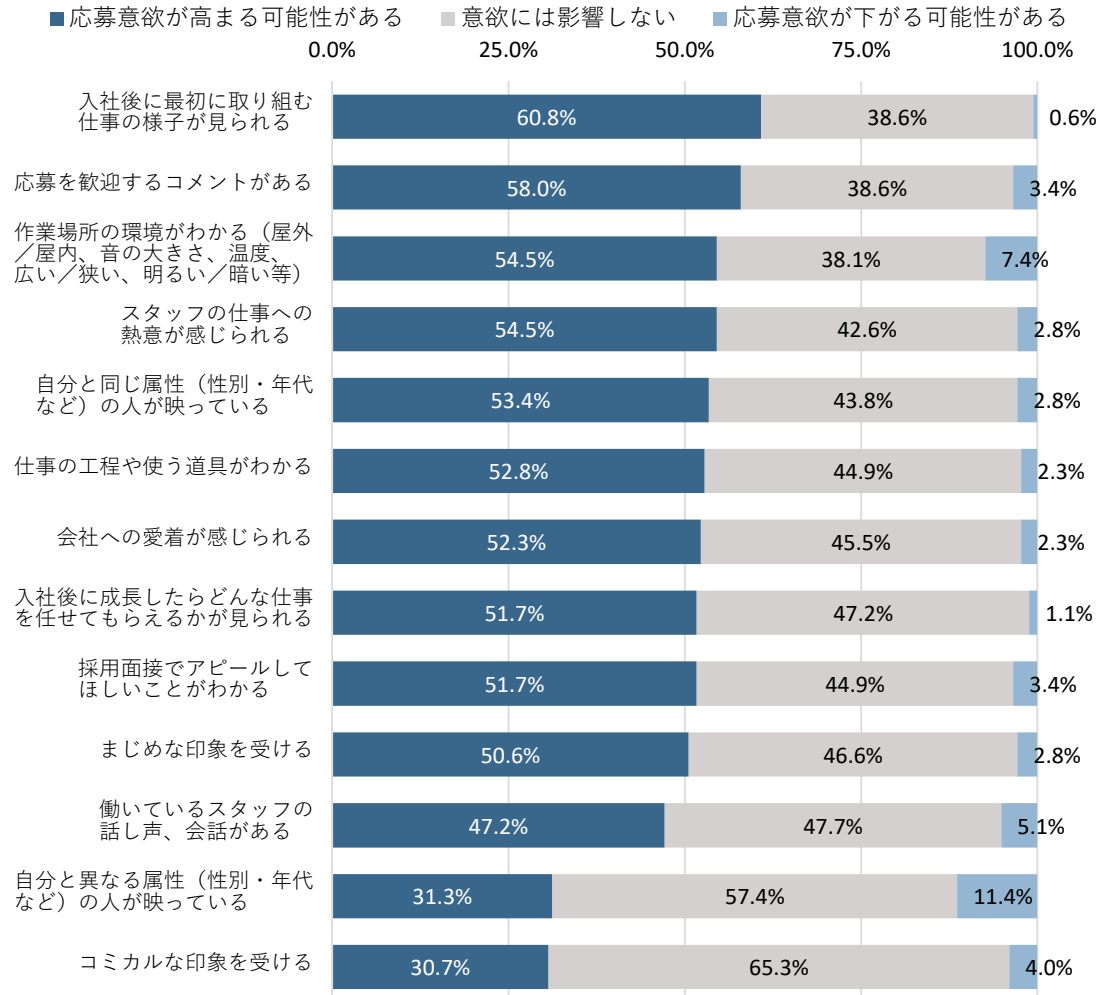
(パートまたはアルバイト希望者) 求人動画の内容が応募意欲に与える影響

イーアイデムに掲載された求人に応募した、パートまたはアルバイト雇用を希望する人に、その企業が掲載する求人動画の内容によって応募意欲が変わるかをきいた。

「応募意欲が高まる可能性がある」割合が最も高くなったのは「入社後に最初に取り組む仕事の様子が見られる」の60.8%、次いで「応募を歓迎するコメントがある」の58.0%、「作業場所の環境がわかる（屋外/屋内、音の大きさ、温度、広い/狭い、明るい/暗い等）」の54.5%となった。実際に携わる仕事の他に、その仕事を進めるヒトとモノの環境を目で見て確認できると、応募意欲の向上につながりやすいようだ。一方で、「コミカルな印象を受ける」は30.7%となり、演出が大きな影響を与えるわけではないようだ。

「応募意欲が下がる可能性がある」が最も高くなったのは、「自分と異なる属性（性別・年代など）の人が映っている」の11.4%となった。

求人動画の内容によって、その企業へのあなたの応募意欲は変化しますか？（パートまたはアルバイト希望）



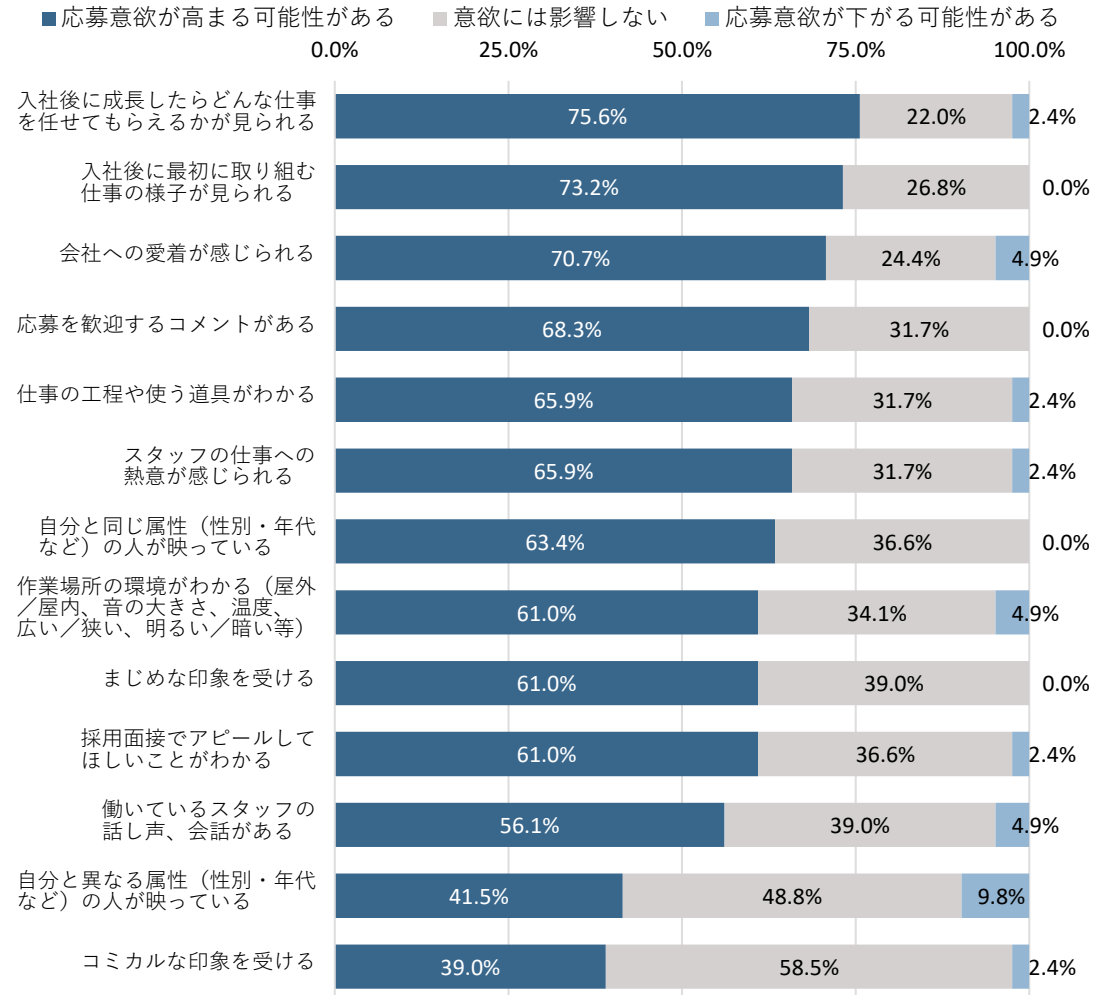
(正社員希望者) 求人動画の内容が応募意欲に与える影響

イーアイデムに掲載された求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、その企業が掲載する求人動画の内容によって応募意欲が変わるかをきいた。

「応募が高まる可能性がある」割合が最も高くなったのは「入社後に成長したらどんな仕事を任せてもらえるかが見られる」の75.6%、次いで「入社後に最初に取り組む仕事の様子が見られる」の73.2%、「会社への愛着が感じられる」の70.7%となった。入社後の成長機会や、キャリア形成のイメージにつながる内容に、応募意欲が高まる人が多い。また、「コミカルな印象を受ける」は39.0%で選択肢の中では最も低くなっており、正社員希望者においても演出が大きな影響を与えているわけではないようだ。

一方、「応募意欲が下がる可能性がある」割合が最も高くなったのは「自分と異なる属性（性別・年代など）の人が映っている」で9.8%だった。

求人動画の内容によって、その企業へのあなたの応募意欲は変化しますか？（正社員希望）



応募を検討している企業の求人動画をみたいか

イーアイデムに掲載された求人に応募した人に、応募を検討している企業の求人動画をみたいと思うかをきいた。

希望の雇用形態別にみると、「パートまたはアルバイト」を希望している人では、「はい」が70.5%、「いいえ」が29.5%となった。約7割が求人動画での情報を希望しているようだ。P9の結果を踏まえると、求人動画では、勤め始めて最初に取り組む仕事などを紹介したり、応募を歓迎する要素を取り入れたりすることで、ミスマッチを防ぎつつ仲間として迎え入れる準備ができているといったアピールにつながりそうだ。

一方、「正社員」希望では「はい」が78.0%、「いいえ」が22.0%となった。約8割が求人動画の視聴を望んでおり、有益な情報源として期待されているようだ。P10の結果を踏まえると、実際の仕事や将来どんなことを任せたいのかがわかるようにすることで、キャリア形成のイメージや価値観のすり合わせにつなげられるだろう。採用側にも負担が大きくなるリアリティショックを防ぐためにも、求人動画の有効活用が期待される。

希望の雇用形態を問わず、求人動画による情報提供のニーズは高いことが分かった。日常に動画コンテンツが増え続ける現在では、文章だけでは表現しにくい部分の補完材料として、映像による情報のニーズは今後より高まっていくと考えられる。

応募を検討している企業の求人動画をみたいと思いますか？

